

地域・在宅生活支援活動論	2年・後期	1単位 15時間	講師 田村 香奈
科目カテゴリー	看護提供のあり方	科目ナンバリング	33210612

1. 授業のねらい・概要

本科目は、学生が地域・在宅看護過程に特徴的なアセスメントや看護目標の立案するために、療養者とその家族がその人らしく生活を継続できる視点で習得することを授業のねらいとする。既習の地域アセスメント及び地域・在宅看護学概論の知識を基に、事例の看護計画を立案する。また、地域・在宅看護過程の展開について、地域の社会資源を検討する視点で理解する。そして、地域・在宅看護学実習に向けて、訪問看護において実際に使用されている書類様式とその実施内容を理解する。

2. 学修の到達目標

1. 地域・在宅看護過程の特徴について、生活環境（地域アセスメント）や時間的な広がり、生活および価値観の多様性、生活を支える制度から説明することができる。(D-2)
2. 地域・在宅看護過程の展開について、継続看護の視点で説明することができる。(D-2)
3. 地域・在宅看護過程の情報収集について、情報収集項目、情報源と情報収集の方法から説明することができる。(D-2)
4. 地域・在宅看護過程のアセスメントについて、情報整理の枠組みを基に説明することができる。(D-2)
5. 地域・在宅看護過程の看護目標と看護計画について、時期別の特徴から説明することができる。(D-2)
6. 地域・在宅看護過程の看護目標と看護計画について、療養者と家族がその人らしく生活を継続する視点で説明することができる。(D-2)
7. 事例の地域・在宅看護過程について、情報収集、アセスメント、看護目標、看護計画を立案することができる。(D-2)
8. 事例の看護目標の達成に向けて、社会資源を活用したサービス計画を立案することができる。(D-3)
9. 地域・在宅看護過程の実際について、訪問看護において実際に使用されている書類様式とその実施内容から説明することができる。(D-2)

3. 授業の進め方

本科目は、地域・在宅看護の特徴を理解するため、アクティブ・ラーニングやICTを活用して学習する。

【アクティブ・ラーニング実施の有無】

アクティブ・ラーニング実施有：アクティブ・ラーニングとして、学生自身が地域・在宅看護看護を展開し、内容についてプレゼンテーションを行う。地域・在宅看護過程では随時ディスカッションを行い、より良い内容を計画する。

【ICT 活用の有無】

ICT 活用の実施有：Google Classroom を用いて、事前課題及びプレゼンテーション課題の提示、リサーチ内容の共有、講義資料の共有、課題の提出を行う。

4. 授業計画（講義・演習）

回	授業内容	授業形態	事前事後学修（学修課題）	担当
1	地域・在宅看護の看護過程（1） 地域・在宅看護における看護過程	講義 演習	予習：テキスト pp16-24, pp298-300 を読む。関連する動画を視聴する。 復習：地域・在宅看護過程の特徴を 既習の看護過程と比較してまとめ る。	田村香奈
2	地域・在宅看護の看護過程（2） 地域・在宅看護過程の展開方法① 情報収集とアセスメント	講義 演習	予習：テキスト pp24-32 を読む。 復習：地域・在宅看護過程の情報集 項目とアセスメントの視点をまと める。	田村
3	地域・在宅看護の看護過程（3） 地域・在宅看護過程の展開方法② 地域・在宅看護における時期別の看護 目標と看護計画	講義 演習	予習：テキスト pp32-42 を読む。 復習：地域・在宅看護過程の時期別 の看護目標と看護計画についてま とめる。	田村
4	地域・在宅看護の事例展開（1） 事例のアセスメント	講義 演習	予習：担当事例を精読する。 復習：担当事例の情報を分類し、ア セスメントする。	田村
5	地域・在宅看護の事例展開（2） 事例の看護目標・看護計画の立案	講義 演習	予習：担当事例のアセスメントをま とめる。 復習：担当事例の看護目標と看護計 画を立案する。	田村
6	地域・在宅看護の事例展開（3） 事例の看護過程の検討①	講義 演習	予習：担当事例の看護計画をまと め、発表の準備をする。 復習：他者の発表から、自身の担当 事例の看護計画を修正する。	田村
7	地域・在宅看護の事例展開（4） 事例の看護過程の検討②	講義 演習	予習：担当事例の実施・評価方法を まとめの準備をする。 復習：他者の発表から、自身の担当 事例の実施・評価方法を修正する。	田村
8	事例の看護過程の検討（5） 事例の看護過程の検討③ まとめ 定期試験	講義 演習 試験	予習：担当事例の看護過程の展開を まとめる。定期試験対策問題を学習 する。 復習：看護過程の展開の不明な点を 明らかにする。	田村

5. 成績評価の方法・基準

定期試験（受験資格は3分の2以上の出席をした者）50%，演習への取り組み30%，課題提出20%で総合的に評価する。定期試験および課題レポートの取り組みの合格基準は、60%に満たない場合、単位認定できない。

定期試験の方法や出題内容については講義内で事前に告知する。

課題レポートのテーマ等詳細は、事前に講義内で告知する。

評価対象の課題は、達成状況をルーブリック評価表に基づき評価する。

プレゼンテーションは、使用媒体の工夫・口頭発表の技術（パフォーマンス）について学生同士の他者評価および教員がルーブリック評価表に基づき評価を行い、整合性を考慮した採点を行う。ルーブリック評価表は講義内で説明する。定期試験の出題範囲および出題方法等は事前に書面で提示する。

6. テキスト・参考文献

テキスト：石田千絵他：ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術（第3版），メディカ出版，2025.

参考文献：河原加代子他：系統看護学講座専門分野 地域・在宅看護論 [2] 地域・在宅看護の実践（第6版），医学書院，2022.

7. 準備学習に必要な時間，又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

シラバスの授業計画の範囲について，1時間以上の予習・復習を行うこと。

8. 受講上の留意事項

欠席した場合は欠席届をすみやかに担当教員研究室前ボックスもしくは直接教員に提出すること。

（欠席届用紙は教学課にある）

地域・在宅看護学実習の先修科目である。本科目の理解が地域・在宅看護実習に連動するため，教科書や配布資料をよく読みこんでおくこと。不明な点は担当教員に確認すること。

9. 課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパー及び課題の解説は授業時間内に行う。定期試験後に試験結果の傾向及び解答解説の機会を設ける。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり，修得できない場合進級不可となる。

11. 該当する本授業は，以下の実務経験を活かして実施される

大学病院及び訪問看護ステーションの医療機関における看護師としての実務経験，看護基礎教育及び看護継続教育での講義・演習・実習指導経験を生かして指導を行う。